

台風19号

なお復旧途上

本会正副会長 東北4市被災地視察

本会の野尻哲雄会長（大分市）はじめ正副会長は2月12～14日、昨年10月の「令和元年東日本台風」（台風19号）で大きな被害に見舞われた福島県いわき市、郡山市と宮城県大崎市、角田市の4市を視察した。被災から4か月経つてもなお、災害の爪痕は残り、地元関係者の顔つきは厳しい。復旧途上にある被災地の実情を見た同会長は「地球温暖化の影響もあり、台風が勢力そのまま東北まで来るような時代になっている。被災地の声を国への要望活動に生かしていく」と約束した。

副会長で参加したのは 議長も合流した。

いわき市

菅波健いわき市議長、堀川秀樹福井市議長、渡辺進二郎調布市議長、峯満寿人河内長野市議長、清水官郎松山市議長の5人。角田市視察には本会東北部会長の岩谷政良秋田市

初日12日に訪れたのは 菅波副会長の地元いわき市。昨年10月12日午前0時から13日午前9時までの総雨量は最高で448

・5㎜に達し、

二級河川の夏井川の堤防7カ所が決壊、好間川、鮫川でもそれぞれ1カ所破堤した。濁流が市街地一気に流れ込



夏井川決壊箇所（いわき市）

「家に戻りたくても戻れない、家を直したくても直せない」

み、全壊125戸、大規模半壊850戸、半壊3220戸を数え、9人が死亡した。浸水エリアは夏井川系で約1210ha、市南西部の鮫川水系で約

65haに及んだ。同市を襲った過去の災害の歴史の中では伊勢湾台風（昭和34年9月）時の死者6人、負傷者24人を上回る被害となった。

一行は堤防脇でバスを降り、夏井川の堤防を歩いて実際の決壊箇所にて修復中の堤防には幅約25mに渡って白い土嚢が何十個と積み、反対側にはブルーシートで覆われている所も。周囲には改修を終えて生活再建が進んだ住居がある一方、空き家状態の家も目立つ。



平浄水場で被災説明する菅波副会長（いわき市）

取水した川の水を貯め、薬品投入で不純物を分離する沈殿池（地下）は天井にまで水で浸かった。

市民がいる。行政ができていくには限界がある中でいかにこうした被災者に寄り添っていくかが問われる」と菅波副会長は神妙だ。

一行はこの後、市全体の3分の1の水供給を担う夏井川沿いにある平浄水場の視察に回った。

浸水被害で基幹電気設備や操作盤などが軒並み水没して運転がストップ。市内約4万5400戸が断水し、約10万人に影響が出た。電気室、ポンプ室が入る管理棟は床上62cmまで水が入り込んだ。

この間10日にわたって、ほかの自治体や自衛隊の応援を得ながら給水所を設置したり、延べ486台の給水車を配備したりするなど緊急対策を取り続けた。

今後の浸水防止策のため、市水道局は大型土嚢を2段階積みにして浄水場周囲（400m）に張り巡らせるなどの浸水防止対策を進めており、3月末までに作業を終わらせ